

日本健康心理学会メールマガジン No.44



2016年3月22日 第44号

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラムvol.39 国立成育医療研究センター 大矢幸弘先生

1) 学会からのお知らせ <http://jahp.wdc-jp.com/>

■健康心理士資格の取得、さらに上位資格への昇格（学会事務局より）

ただいま「健康心理士資格の取得、さらに上位資格への昇格」について推奨しています。

詳しくは添付のポスター（PDF）をご覧ください。
〈添付のファイル：健康心理士poster〉

■2016年度会費ご納入のお願い（財務委員会より）

年度会費のご案内が届いている頃かと思えます。
学会プレゼンスを一層高める活動を計画中です。年次大会の発表にも
会費納入が必要になります。お早めの納入にご協力ください。
情報を確実にお届けするため、連絡先の変更があれば合わせて手続き
をお願い致します。

■日本健康心理学会第29回大会(岡山) 大会準備委員会企画2（第29回大会準備委員会より）

[ワークショップ]研究に役立つ統計の知識（仮題）

講師：土屋政雄 先生（独立行政法人労働安全衛生総合研究所 研究員）

司会：東條光彦（岡山大学、大会準備委員）

「効果量以上…ベイズ未満」…もっと使われるべき心理測定的な方法は…。

統計を改革する！研究者だけでなく臨床家、資金提供者から政策立案者等の皆さんまで。

数学が苦手な人でも大丈夫！わかりやすく解説いただきます。

第29回大会URL：<http://jahp.wdc-jp.com/conf/29th/>

いざ！岡山へ！！-岡山大会の魅力：<http://jahp.wdc-jp.com/conf/29th/okayama.html>

※岡山県では、JR6社とタイアップして、2016年春「晴れの国おかやまデスティネーションキャンペーン」を行っています。

2) 健康心理学コラムvol.39

「健康心理学とアレルギー」

（国立成育医療研究センター生体防衛系内科部アレルギー科 大矢幸弘先生）

アレルギー疾患はいまや国民の半数近くが罹患するCommon diseaseとなり、多くの医師がその診療に関わっていますが、治療にはある種のコツを必要とします。

そのコツのなかで重要なパーツが健康心理学の素養です。

アレルギー疾患はどんなに重症であっても、ほぼ完璧なコントロールが可能な時代に入っているのですが、中途半端な薬物療法しか知らない医師にかかると治りません。

適切な薬物療法と患者教育による良好なアドヒアランスそして健康的なライフスタイルの確立が必要だからです。

さらに、様々な情報に惑わされている患者さんの知識を整理し、論理的な思考とエビデンスに基づいた治療ができるよう導くことも大切です。

私にとって健康心理学とは、研究業績を上げるための手段ではなく、よりよい診療を実現するための手段なのです。
すなわち、診療の質を上げ、そうしたコツを広めるためには、研究という手段を利用することが必要になります。
アドヒアランスに関する研究やQOL尺度の開発は、その入り口に位置します。

今、アレルギー疾患の治療や予防策は大きな転換期に差し掛かっています。
これまでの常識が180度ひっくり返るといったパラダイムシフトが起っていますが、これはコホート研究やランダム化比較試験によるエビデンス水準の高い研究による成果です。
さらに、健康心理学的な視点からエビデンスを出してゆけば、診療の現場だけでなく、公衆衛生的施策にも影響が及ぶことでしょう。
そして、数十年後にはアレルギー疾患は老人の病気であって、子どもが罹るような病気ではない、という時代がくることを予期しています。

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更については下記アドレスまで。日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想については下記アドレスまで。広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます
<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>